

日本語学校へ100万円

古川土地「留学生ケアに」と寄付

不動産建設業の古川土地（大崎市古川）は3月28日、市立おおさき日本語学校の運営経費として現金100万円を同市に寄付した。公設公営で全国2例目、認定日本語教育機関として初となるおおさき日本語学校を巡っては、同社の早坂竜太社長個人が事業者公募

に応じる形で学生寮を整備。会社側と協力企業、市の支援で寮の管理運営までを担う。寮はJR古川駅近くに3月24日、開所した。市役所で贈呈式があり、早坂社長は「大崎市の果敢な挑戦に共感し、私個人、さらに会社としても事業に関わった。初めてのことで

想定外もあると思う。留学生のケアに役立ててほしい」と語った。伊藤康志市長は「県と市の連携事業を企業や団体、市民の皆さんに支えてもらい、全国注視の中で成功モデルをつくっていく。（早坂社長に）志高く先鞭をつけていただいた」と感謝の言葉を述べた。



市役所での贈呈式

大崎の早坂さん、鎌倉さんが応援歌制作

利用者の減少で存続が危ぶまれているＪＲ陸羽東線（小牛田―新庄間）に関心を持ってもらおうと、大崎市民有志が応援歌「ローカル線にのって」を制作した。市はイベントなどでの披露のほか、車内放送への活用を検討する。

鉄道の足元

@東北

作詞は「四恩」のペンネームで活動する同市の早坂幸子さん。車窓に流れる懐



市役所を訪れた早坂さん（中央）、鎌倉さん（右から2人目）会田さん（右端）

古里の記憶優しく表現

かしい風景、人々の温かさ、父母の記憶などを優しい言葉に織り込んだ。作曲と歌は同市の音楽講師鎌倉亜紀子さん。ゆったりとしたメロディーとピアノの伴奏で、ローカル線への愛着を表現した。

2人は3月28日に市役所を訪れ、友人で同市の会田征子さんの手話とともに歌を披露した。

早坂さんは「陸羽東線が走る日本の原風景を歌詞にした。一人でも多くの人に利用してもらい、未来につながってほしい」と説明。

鎌倉さんも「歌詞が大切に伝わるようにと作った。いろいろな地域の人に聞いてもらい、歌ってもらいたい」と話した。

伊藤康志市長は「すてきな歌で陸羽東線に乗っている気分になった。応援歌としてみんなの宝にしたい」と感謝した。

歌って乗って陸羽東線

桜色の空に あこがれ抱いて
最寄りの駅から ひとり汽車にのるとなりに座った おばあさんの古里なまでに 母を思えば
線路づたいに 菜の花がほほえむ
巡る季節のなか 泣いたり笑ったり
生きてることが 今のキセキ
あなたをのせて 夢をのせて
ローカル線が 今日も走ります

宿の坂をおりて 歩いたこの道
岸辺に釣りびと アユは釣れますか
水草ゆらめき 躍る光り
だいじな景色が ここにあるよと
風はささやく 旅人の心に
巡る季節のなか 助け合い譲り合いは
やさしき愛の 贈りものね
あなたをのせて 夢をのせて
ローカル線が 今日も走ります

無人駅のホーム 乗り込む学生
おしゃべり花咲く。今が青春ですね
誰かが指差す 車窓の向こう
田んぼで手を振る 父に似た人
なぜか嬉しく 頑張れる気がして
巡る季節のなか 晴れた日も雨の日も
成り行きまかせ 花も人生も
あなたをのせて 夢をのせて
ローカル線が 今日も走ります

あなたをのせて 夢をのせて
陸羽東線 今日も走ります

◇ローカル線にのって作詞 四恩 / 作曲 歌 鎌倉亜紀子 ◇

大崎の日本語学校へ100万円

地元建設業者、市に寄贈

不動産建設業の古川土地（大崎市）は、市が開校した「おおさき日本語学校」の運営経費として100万円を市に寄付した。

早坂竜太社長はJR古川駅近くに学生寮を整備する市の事業者公募に応じ、市有地を無償で借り受けて建設工事を実施。3月24日に開所式を迎えた。市が同社など協力事業者とともに運営に当たる。

市役所で3月28日に贈呈式があり、早坂社長は「市の取り組みに共感して携わった。初めてのことで想定外もあると思うが、学生の

ケアなどに少しでも役立てほしい」と話した。

伊藤康志市長は「国を代表する成功モデルにした。地元からの応援に先鞭をつけていただいた」と感謝した。

株式会社古川土地様からの
寄附金贈呈式



伊藤市長に目録を手渡す早坂社長（右から3人目）

ふるさとを積極支援

首都圏大崎連絡協が総会

「首都圏大崎連絡協議会&大崎ネットワーク第18回総会」が3月22日、東京都台東区で開かれ、ふるさと支援に積極的に取り組むことを確認した。

首都圏大崎連絡協議会(草刈文幸会長)は、大崎市内各地域の首都圏在住者団体や、大崎市内高校出身同窓会な

どの連絡組織。大崎ネットワークは大崎市にゆかりのある人々の団体で、代表は草刈首都圏大崎連絡協議会長が兼ねている。

総会には約60人が出席。草刈会長は「積極的に大崎の行事に参加し、ふるさとを応援したい」とあいさつ。会計報告が行われ、出席

者が承認した。

来賓として出席した伊藤康志市長はあいさつで、市立おおさき日本語学校の開設など市の取り組みや市の現状を伝えた。

また、古川女子高(現古川黎明高)出身で、元女子プロボクシング世界5階級王者の藤岡奈穂子さんが講演。引

退後、講演やパーソナルトレーナーの活動を行っているっており、この春からは大学院に進んで研究活動に取り組むことなどを報告した。

また、首都圏大崎連絡協議会顧問の早坂竜太古川土地社長が、大崎市の話題が掲載された新聞記事を冊子にまとめて配布し、ふるさととの動向を出席者に紹介した。

総会後は懇親会が開かれ、大崎の地酒で乾杯して親睦を深め合った。



東京都台東区で開かれた総会

廃校を公立の日本語学校に

さらに一歩進んだ試みも出てきた。公立の日本語学校を設立し、地方創生の柱のひとつにしようという取り組みだ。

宮城県の北西部に位置



する大崎市。人口減少が進む約12万人の街に4月、「市立おおさき日本語学校」が開校する。国内で2番目の公設公営の日本語学校となる。

校舎は、廃校になった小学校を県の支援金や国の交付金を使って改修し

「おおさき日本語学校」の図書室には漫画も並ぶ。鈴木俊光校長は「地域に愛される学校に」と言う。11月10日、宮城県大崎市、織田一撮影

た。生徒は18歳以上の外国人が対象で、教育課程は1年、1年6カ月、2年の3コースある。入学時の校納金は88万〜170万円、市が半額程度を補助し、補助金の8割は国の特別交付税だ。

最初の入学生は約30人を予定。「卒業生の地元を予定」を前面に掲げ、地域との密着を重視する。商工会議所などと連携し、在学中のアルバイト

先や卒業後の就職先として校の生徒をさらに増やして地元企業の紹介を予定して鉄道の維持にもつなげる。カリキュラムにはたい考えて、学校の時間

小中学校の訪問といった割は列車の時刻表を踏ま校外活動も組み込んだ。えてつくった。

「企業の人手不足対策 茂和泉室長は「少子化というだけではない。大対策はなかなか結果が出ない」と語り、残らない。外国人材を迎え入る。利用するJR陸羽東線は赤字が深刻だ。沿線には鳴子温泉などがあ

(永井啓子、織田一)

「多文化共生」実現へ

市立おおさき日本語学校開校

大崎市は24日、認定日本語教育機関「市立おおさき日本語学校」の開校式を現地（旧西古川小）同市古川保柳で開いた。4月初旬からベトナム、インドネシア、台湾の留学生計28人を迎え入れ、同日には入学式も行う。

学生寮の開所式も



開校式で校名板を披露する伊藤市長と鈴木俊光校長

公設公営としては北海道東川町に次ぐ2例目で、国の新制度（昨年4月施行）下では全国初めて。三つの教育課程（2年、1年6カ月、1年）があり、初年度定員60人。残る32人も10月入学で募集して満たす構え。3年目に90人、5年目に100人が目標という。

日本語教育を施すだけにとどまらず、人口減少時代の活力維持、国籍や民族が異なる人が共に生きる「多文化共生」社会の実現、廃校活用モデル化を目指す。さらにはJR古川駅近くに学生寮を置き、陸羽東線での通学（古川―西古川間）を前提とすることで鉄路活性化の狙いも。県との「二人三脚」ぶりも目立つ。開校までの事業費約3億2000万円の大半が県補助金で、継続的財政支援も約束。留学生集めも県の現地サポートセンターが担っている。式には市と県の関係者、地域住民ら約90人

が出席。あいさつで、伊藤康志市長は『新しき和の創造』が学校の理念。留学生が大崎市に愛情を持ち、卒業後も第二の古里として地域活力の一翼を担ってもらえることを願う」と語り、村井嘉浩知事は「地域の皆さんも留学生を住民として受け入れてほしい。県もしっかりサポートする」と祝辞を述べた。同日は開校式に先立ち、民間活力導入による学生寮「Oneness Court」と、楽・持（ワンネスコートわらじ）（同市古川中里）の開所式もあつた。個人で建設費を負担し、維持管理も担う

市との「二人三脚」を強調する村井知事



学生寮開所をテープカットで祝う関係者



早坂竜太さん（古川土地社長）は「地元大崎市と宮城県への恩返し」と、次の時代を担う子どもたちや留学生への

3月末完成見込み。

「留学生の第二の古里に」

大崎市が運営する本州初の公立日本語学校「おおさき日本語学校」の開校式が24日、旧吉川小を改修した校舎で開かれた。4月初旬にはベトナム、インドネシア、台湾から最初の留学生計28人を迎え入れ、同日に入学式を開く。

大崎・日本語学校開校式

市、県の関係者や地域住民ら約90人が出席。伊藤康志市長は「多文化共生の花を咲かせ、結実させる。大崎市が留学生の第二の古里となり、卒業後も一人でも多く住んでもらうこと。地域活力の一翼を担ってほしい」とあいさつ。村井嘉浩知事は「県としてやれることをしっかりとサポートしていく」と述べた。

同校は北海道東川町に次ぐ全国2例目、国が昨年施行した認定制度では初の公設公営校。日本語教育のほか、独自科目「Oタイム」を通じて地域との交流を図る。初年度は3課程（1年、



①開校式で校名板を手に持つ鈴木俊光校長（右）と伊藤市長
②テープカットで学生寮の開所を祝う関係者

多文化共生へ関係者決意

1年6カ月、2年、計60人の入学を想定し、現在は10月に入学する残り32人を募集中。5年後には100人を目標とする。開校式に先立ち、民間事業者が市有地を無償で借り受け、JR吉川駅に近い同市吉川中里に整備した学生寮「Oneness Court（ワンネスコート）和・楽・持」の開所式もあり、約70人が出席した。今回は1棟目として60人分の居室を整備。留学生の増加に対応して40人分の2棟目を建設する。事業者の早坂竜太氏（吉川土地社長）は「地域への恩返し、子どもたちや留学生への恩送りとして、しっかりと運営する」と誓った。

学生寮も開所



宮城・大崎市が日本語学校開校式典

宮城県大崎市が外国人留学生向けに設置する「大崎市立おおさき日本語学校」が24日、開校式典を開いた。伊藤康志市長は「2年半を費やして準備を進めてきた。多文化共生社会の実現に向けて、異文化交流の拠点となる日本語学校と学生寮が果たす役割は大きい」と述べた。日本語学校は4月に開校予定で、初年度は台湾やベトナム、インドネシアから28人が入学する。

式典に先立って公開された学生寮は、2階建て延べ床面積は約1600平方メートル。約60の居室とリビング、キッチンなどがある。

1年間の無災害誓う

大崎市建親会 会員出席し安全祈願祭

大崎市建親会（高橋克幸会長）の工事安全祈願祭が1月30日、大崎市古川のアインパルラ浦島で開かれた。会員の建設業経営者らが



玉串をささげ無災害を誓う高橋会長

出席して神事を行い、ことし1年間の無災害を誓った。

祈願祭には会員のほか伊藤康志市長、関係者合わせ約100人が出席。神事では同会の

早坂竜太副会長が「労働災害ゼロ実現へ全員の英知を結集し、一層努力する」とする宣言文を神前で読み上げ、伊藤市長や高橋会長らが玉串をささげて安全を祈った。

引き続き新春祝賀会があり、高橋会長は「無災害へ労使一体で取り組む。災害対応など、会の存在意義を今まで以上に発信していきたい」とあいさつ。来賓

として出席した伊藤市長は「1年間穏やかに、無災害であることを祈る」と祝辞。今夏の参院選に自民党から立候補予定の石川光次郎元県議会議員が祝いの言葉述べた。

この後、乾杯して祝宴に入り、同会や地域の発展を祈った。

昨年、古川労働基準監督署管内で発生した労働災害（休業4日以上）のうち、建設業の死傷者は39人で前年比15人増加し、1人が亡くなった。

警察活動各分野で協力

古川署 9団体と37人に感謝状

古川署は15日、警察活動各分野の民間協力者に対する感謝状贈呈式を署内で開いた。

新春恒例の取り組み

で今回は9団体、37個人が対象。高橋誠署長は謝辞で、管内における2024年中の刑法犯認知件数と人身交通事故がともに前年より増えた一方、凶悪犯罪の早期検挙や交通事故の総数減など警察活動での成果を振り返り「地

域に寄り添い、安全安心な社会実現に向けて署員一丸となり全力を尽くす」と力を込めた。

被表彰者・団体は次の通り。(敬称略)

▽団体Ⅱイオン古川店、岡本病院、倉島本店、ヨークベニマル古川店、警察犬松本訓練所、三本木特殊詐欺なくし隊、JR東日本古川駅、大崎市防犯実働隊古川分隊第10班、き

むら▽個人Ⅱ伊藤淳

伊藤孝之、尾出恵一、

太田司、大田良一、大

場卓、大場政由、大場

緑郎、金原温、工藤克

彦、佐々木謙次、佐々

木誠子、佐々木哲朗、

佐々木眞、佐藤俊一、

佐藤優子、末永俊一、

鈴木克春、瀬戸弘、高

橋弘、高橋政幸、千坂

宏、千葉君夫、千葉光

弘、千葉基、二階堂和

子、沼田勝、早坂政昭、

早坂竜太、平野和則、

本郷輝朗、松本進、三

浦能壽、味上初、宮崎

英行、宮下英士、柳川

孝行



一人一人に感謝状を手渡す高橋署長(古川署提供)